

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

KOFU21
Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

編集長 野々垣和宏

2025 年 06 月 04 日 (水) 発行



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨 Y M C A グローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	A・シャナヴァスカーン(インド) 「より良い世界のために、共に」 (Together for a Better World)	甲府21ワイズメンズクラブ 2025 年 6 月会報 今月の強調テーマ Y M C A、年次計画
アジア太平洋地域会長	ジョウン・ウォン(香港) 「大きなインパクトを起こそう」(Make a Great Impact)	
東日本区理事	山田公平 (宇都宮) 「ワイズの方向性を見極める」(Our Future Direction)	
あずさ部部长	ピーター・マウントフォード(甲府) 「めあて 望み」	
甲府21クラブ会長	興水順雄 「未来のために行動しよう」(Let's act for future!)	

今月の の 聖句

「人よ、何が善であり、主が何をお前に求めているかは お前に告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである。」
旧約聖書 ミカ書 6 章 8 節

選者：古屋 秀樹

6月 巻頭言



こうふ亀屋座

最近できた話題の場所と言えば、南アルプス市の「コストコ」と舞鶴城南側の「小江戸甲府・花小路」が思い浮かびます。花小路の中に「亀屋座」があります。昔は若松町のあたりにあったようです。見学しましたが中心街活性化へ可能性を感じる施設でしたので、早速 6 月第 1 例会の会場として利用することにしました。例会はもちろんですが、その後「花小路」を散策してお酒やスイーツを楽しんでください。

今年度も最終月となりました。役員を始めとした皆様のご協力で、2024 - 2025 年度の活動を行うことができたことに感謝いたします。ほとんどの活動は山梨 YMCA と共にありまし

甲府 21 クラブ会長 興水 順雄

た。ビッグイベント「バザー」、「チャリティーラン」を始めとしてフクロウキャンプ、銀河鉄道の森での昼食づくり、子供たちと共に汗を流した境川の沼田農園での野菜栽培など。また、活動の場として、クラブ例会、ホストクラブとして対応したあずさ部評議会、定着してきたベビーカーコンサート、W4W などなど。

こうした活動の中で、会員相互の交流の大切さを感じています。現在 45 名の会員は東日本区で一番ですが、平均 70% の出席率を 80 ~ 90% にできればクラブの大幅なパワーアップが可能です。そのためには会員相互の交流を深め、クラブの活動だけではなく個人の活動の場(ビジネス)にもつながるものであって良いと思います。

世界では紛争は止まず、アメリカを始めとする大国は余裕をなくして自国第一主義に向かっています。しかし、希望は必ずあるはずです。私たちの活動が少しでも子供たちの未来のためになることを信じて進んで行きたいと思えます。

今年度の皆様のご協力に改めて感謝すると共に、期待の若手・水越正高次期会長にバトンを託したいと思います。

Vamos, senhor Mizukoshi !

Allez, M. Mizukoshi !

Let's go, Mr. Mizukoshi!

VAMOS!

<例会プログラムは P 2 >

6 月第 1 例会プログラム

6 月 第 1 例会プログラム

日時： 2025 年 6 月 4 日 (水) 18:00 ~

会場： 甲府花小路「こうふ亀屋座」1 階

司会 寺田喜長ワイズ

興水順雄会長

1. 開会点鐘
2. ワイズソング・ワイズの信条
(奏楽) 杉田博子ワイズ
3. 今月の聖句 古屋秀樹ワイズ
4. 会員一言 松村豪夫ワイズ
5. 会長挨拶、ゲスト紹介 興水順雄会長
6. ハッピーバースデー
7. 「こうふ亀屋座」の経緯 館長：早川重樹氏
8. YMCA 報告・諸報告
9. YMCA の歌
10. 閉会点鐘 興水順雄会長
11. ワイズディナー (亀屋座の外庭)

<編集長より>

昔、甲府にあった芝居小屋『亀屋座』とは…・明和元年(1764 年)、竜屋与兵衛が春・夏・秋の「三季芝居」を開催したいと願い出て、翌年、甲斐国最初の芝居小屋である「亀屋座」が教安寺(金手町)に完成しました。

その後、大火により西一条町(現在の若松町)に移転し、文化 2 年(1805 年)に落成した新たな「亀屋座」は、間口 11 間(約 20m)、奥行 20 間(約 36m)という大規模なものでした。

当時の甲府は町人文化が開花した城下町であり、芝居熱が高く、聴衆の目が肥えていたことから、江戸役者は「亀屋座」で顔見世興行を行い、その評判により給金を決めたと伝えられ、市川團十郎、坂田藤十郎、中村仲蔵、坂東三津五郎、瀬川菊之丞、松本幸四郎といった歌舞伎界の名優たちが次々と「亀屋座」の舞台を踏んでいました。



2025 年 5 月第 1 例会報告

書記 荻野清

・日時 2025 年 5 月 13 日 (火) 18:30 ~
・会場 山梨 YMCA 3F 大澤英二記念ホール「ベテル」
興水会長の挨拶では、特に W4W イベントや同日に開催されたベビーカーコンサートと障がい者フライングディスク大会への会員の積極的参加に対しての感謝が述べられた。また、ゲスト紹介では、はじめに YBS T&L の原孝一朗氏が紹介され、アジア太平洋地域大会 in 熊本の旅行行程が示され、さらに大阪・関西万博の誘いがあった。原氏は 7 月に当クラブ入会予定者となりました。次にシンガーソングライターのしらいみちよ氏が紹介され、能登半島地震・奥能登豪雨被災地支援活動の報告が TV ニュースの動画と共にあった。しらい氏から支援金に対する丁寧なる感謝の言葉をいただいた。

5 月例会は、次期クラブの方向性を説明する月で、次期クラブ会長の水越正高ワイズから、年度方針、役員・委員会の方向性および年間の主たるスケジュールが説明された。また、近々の“山梨 YMCA チャリティーラン”のレース部としての参加予定者とポジションの説明がなされた。

諸報告では、佐藤重良ワイズから『子どもゆめ基金』活動の方向性が示された。クラブ行事の合間を縫って先ずは 9 月 23 日を第一回目の活動実施日とした実行委員会を継続すると、確認し合った。また末木ワイズから、特定非営利法人まるごみ JAPAN (旧名称 U-PROJECT 代表の向井耕作氏の紹介があり、我がクラブとの共通取り組みのお話があった。

YMCA 報告として、当クラブ主事で山梨 YMCA チャイルドケア事業部ディレクターの平賀佳雅ワイズから、5 月 24 日に迫った“山梨 YMCA チャリティーラン”の参加とラッフル券購入の誘いがあった。

セミファイナル的 5 月第 1 例会は、閉会点鐘で閉じた。

次回 6 月オーラス (南 4 局) の第 1 例会は、新しく甲府市内にオープンした“小江戸甲府花小路”内の『こうふ亀屋座』で 6 月 4 日 (水) 18 時から開催予定。会員全員の参加を期待!

チャリティーラン 2025 報告

水越 正高次期会長

第 27 回山梨 YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2025 参加報告

本年の山梨 YMCA チャリティーランは、例年より 1 ヶ月早い開催となりましたが、当日は朝から曇り空ながらも暑すぎず、ランニングには最適な気候に恵まれました。

今年も私たち甲府 21 ワイズメンズクラブはレース部門の支援として参加し、初めての参加となるメンバーもそれぞれの持ち場でしっかりと役割を果たしてくれました。準備から本番まで、皆で協力し合いながら支え合う姿に、チームとしての一体感をあらためて感じることができました。

また、今回は急遽ではありましたが、クラブから 5 名のランナーが自走選手としてエントリー。山口さん、藤原さん、武井さん、水越、平田さんの 5 名が、それぞれのペースで見事に完走しました。普段はなかなか走る機会が少ない中、全員が笑顔でゴールテープを切ることができたのは何よりの成果です。

このチャリティーランは、YMCA の青少年支援活動を支える大切な取り組みです。来年もより良い大会となるよう、引き続きクラブとして力を合わせてまいります。



第3回あずさ部評議会報告

書記・荻野 清

2024-2025 年度

第3回あずさ部『富士北麓評議会』報告

書記 荻野清

2024-2025 年度の第3回あずさ部評議会(富士北麓評議会)が、5月10日(土)11時から「富士吉田青少年センター赤い屋根」において、46名の参加者で開催された。

P・マウントフォードあずさ部長の点鐘、そして富士五湖クラブ原淑子会長の歓迎の挨拶に始まり、評議会がスタートした。あずさ部の田中書記から時間厳守が発せられ、滞りなく議事が進行し、本年度から次期年度のあずさ部が、コンパクト化した形への変化が見られた評議会であった。

ミニ卓話として、富士五湖クラブの望月勉ワイズが、「剣丸尾赤松林の構造と歴史」と題して話された。1088年前の剣丸尾溶岩の噴出と硫化から、1911年に皇室財産である当地が山梨県に払い下げられ、恩賜林組合ができ、少数であった生育の早い赤松天然林をさらに更新していった歴史話。そして、第二次大戦時には、代替燃料としてこの赤松の松根から、松根テレピン油が製造された赤松の特性のお話と、大変興味深い卓話であった。

懇親会では、富士五湖クラブの尾崎ご夫妻による'70年代のフォークミュージックなどのミニコンサートをメインに、あずさ部のクラブ同士の懇親が続いた。

《6月の誕生者》 Happy Birthday!

(メン)

野々垣健五 (6/5) 寺田喜長 (6/13)
水越正高 (6/14) 杉田博子 (6/15)
奈良田和也 (6/16) 野々垣和宏 (6/21)
清水公一 (6/24)

(メネット)

赤根教子 (6/9) 古屋律子 (6/26)

[敬称略]

今後の予定

6月4日(水) 第1例会 18時～

6月7日(土) 8日(日)

第28回東日本区大会 (宇都宮)

6月17日(火) 第2例会 18時半

<スポーツ>

ヴァンフォーレ甲府対戦表

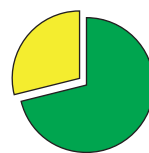
6/15 甲府対熊本 JIT スタジアム

6/22 仙台対甲府 ユアテックスタジアム仙台

6/28 甲府対愛媛 JIT スタジアム

6/3～22 プロ野球セパ交流戦

<5月例会出席者>



71.1%

会員数	45名
第一例会出席者	32名
ゲスト出席者	2名
メネット	5名
総出席者数	39名
出席率(会員のみのみ)	71.1%

会計報告

会計 赤根 学

[会計報告]

2025 年 5 月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
5月の合計	22,320	0	0	22,320
5月末迄累計	171,037	550,000	42,750	763,787
達成率	68.4%	550.0%	85.5%	190.9%



「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]
グウェン・R. P. ノルマン ●著
後藤 哲夫 ●訳
One Hundred Years In Japan, Part I: 1873-1923

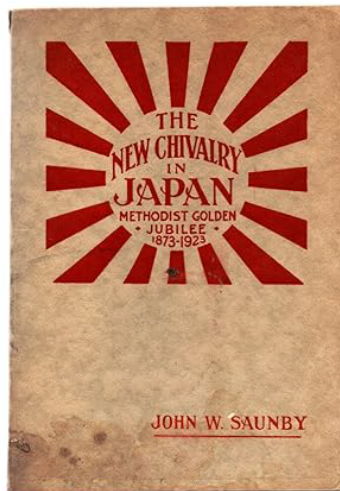
後藤 哲夫

第 17 回 宣教師 それぞれの想い

『「日本での百年」を辿って』の連載も今回で結びとする。百年と言っても 1873 年から 1923 年迄の 50 年間のカナダ・メソジスト教会の日本宣教の足跡である。(因みに、宣教師サンビーは『新しい日本の騎士道』(The New Chivalry in Japan Methodist Golden Jubilee 1873-1923) という 50 年史を 1923 年にカナダ・トロントで出版している。) このメソジスト教会は、ジョン・ウェスレーの信仰と宣教活動を源とし、模範とした。彼は、ルターの福音主義と、フスの流れをくむ敬虔主義と出会った。また、トマス・ア・ケンピスの『キリストに倣いて』、ジェレミー・テラー『聖なる生と死』などの本を読み、強い影響を受けて信仰のリバイバル、覚醒を経験した。ウェスレーと弟チャールズは、教会から外に出て行って、ただひたすら福音(よい知らせ)を宣べ伝える運動を開始した。神の言葉を伝えたい、聖書を普及したいという運動であった。(メソジストの教会がアメリカで創られたのは彼の死後 10 年以上も経ってからである。)

*連載第 2 回 エヴァンゲリオン参照

教会という組織ができあがる前の、純粋な、燃えるような霊的情熱と、心の奥深い所にある人格が、重要なのである。いかに取り繕うとも隠すことのできない真の人格は、すぐに人に伝わり、他者に影響を与え続けた。明治



初期の日本人クリスチャンは、キリスト教の教えが理解できたとか、聖書の知識に感動したとかではなく、遠くカナダからはるばるやってきて、献身的に人々に寄り添い、貧者、弱者を愛して具体的に実践する姿に心打たれ、入信した者が少なくない。宣教師たちに受容され、その人格に触れたのだった。

では、宣教師たちの人格はどのように形作られたのだろうか。一言では言えない多様性がある、彼らの生きていた時代、家庭、教育、体験、出逢いによって培われたと答えるほかはない。百年間で 300 人を越える男女の宣教師が日本に派遣されたが、それぞれの人物史があれば興味深いものとなっただろう。

中でも、アイルランドに出自のある人々(アイリッシュ・メソジスト)は、日本で大きな働きをした。カックラン、D・R マッケンジー、マーガレット・アームストロング、グリーンバンク、A・R ストーン、D・ノルマンらである。彼らに共通する特質は、優しさであり、飾り気なく真面目で、芯がしっかりしていて強いことである。また、ジョークやユーモアが口について出る陽気な明るさもあった。山梨英和の校長グリーンバンク先生も、母親がアイルランド出身であった。卒業生の一人が、「先生のウィンク」という一文を書いている。(Miss Greenbank 1959. 記念誌出版委員会刊 130 頁) 長いのでほんの一部を抜粋してみよう。「・・・授業中の先生は、あの独特の“ウィンク”で生徒をひきつけられた。それは、正しい答えを言った時に、「よく出来ました!!」とおっしゃる代わりの信号なのだった。ある人が「私はあのウィンクが欲しいばかりに、一生懸命勉強したものだ」と語っていたが、



正直に言って私もその一人であったようだ。女学校での5年間を通じて、グリーンバンク先生から叱られたという思い出は何一つない。文字通りやさしい、思いやり深い校長先生だった。・・・」

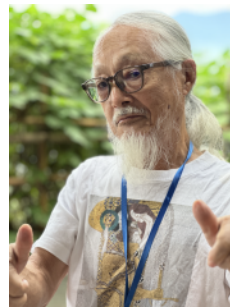


＜ブリテン委員長野々垣和宏です＞

一昨年の年末。書籍を出版なさった後藤先生にブリテンでの連載を打診したところ、二つ返事でお引き受けいただいたことを記憶しています。カナダ宣教師の目を通じて日本の歴史を遡ることに、大いに興味をそそられました。そして毎回楽しく拝見しておりました。まずはこの連載について、後藤先生に厚く御礼申し上げたいと思います。有り難うございました。

皆さんの中で、それぞれ好きな回があるかと思いますが、私が好きな回は、エヴァンゲリオンの回（第2回）です。実はエヴァンゲリオンという言葉は、私の中ではアニメのタイトルでしかなかったのですが福音（＝良い知らせ）ということなんですね。（今月号でも取り上げられています）。1995年のアニメです。エヴァンゲリオンは、セカンドインパクトという大災害を描き、その後の世界の物語です。

さて今回の連載を通じて、一番強く感じたことは、「それぞれの歴史」ということです。キリスト者であっても、そうでない人達にしても、市井の人々にはそれぞれの歴史があります。そしてこの歴史は、身近に残るモノが伝えている、ということです。今月号の挿絵にある山梨英和・宣教師館には、グリーンバンク先生が立っています。今でもこの宣教師館は、甲府市宮前町八幡神社前に現存しています。この宣教師館に、グリーンバンク先生が居た、ということは、私の心にえも言われぬ感動をもたらしてくれました。後藤先生、有り難うございました。



大人な徘徊

[名]（スル）あてもなく、うろうろと歩きまわること。「街中を一する」

葉袋 勝

掲載にあたって

2022 年 8 月頃歩数データを整理した結果、2023 年の 8 月から 9 月に 2011 年に集計を始めた歩数距離総数が、地球円周距離 40,078Km を越えることが明らかになりました。これ以降、この地球円周距離到達時期の予測を行い始め、到達時期に合わせて記録集を皆様にお配りして自慢しようと考えて張り切っておりました。

ところが、以前より所有していた平瀬の別荘の処分が 7 月に決まり、8 月中そこに保管されていた書籍や書類等を処分（大部分は粗大ゴミ）する作業を行い、自宅のものも含めて行ったため終活（断捨離）を実行した事になりさっぱりしました。書籍など処分は致し方がありませんが、これら書籍類を所有保管する事の虚しさを感じました。このため、記録集の発刊もゴミになることが予想され躊躇しておりましたが、この年の猛暑が終わりになり頭が冷えたせいか、編集を再開し、80 の壁にあと一週間で到達する 2023 年 12 月初頭に完成いたしました。

なお徘徊の文字は、皆様には良い印象を与えませんが、私にとって大変すばらしい出来事でした。社会問題になっている徘徊老人の心の中も同じでは・・・

大変未熟な記録ですが、お読みになり感想をいただければ幸いです。

＜編集長 野々垣和宏より＞

来月より葉袋さんの連載が始まります。健康の為に始められた朝イチの散歩。葉袋さんは東西南北各 2ヶ所、8つのコースを組み合わせて行っているそうです。このような異なった場所を散歩することから、「徘徊」と呼んでいるとのこと。世間で使われるものとは違うものです。徘徊る（たもとおる）という言い方もありますが、あちこちと歩き回る、うろつくということ。高齢者の徘徊というのは、実はあてもなく歩いているものではなく、「自宅に帰る」「仕事に行く」など目的があるそうです。ただ、どこをどう行けばいいかわからず、間違った方向に歩いているとか。葉袋さんの徘徊は、日本国内に留まりません。さあ、どこへ行くのやら。男版兼高かおる・・・お楽しみに。

ペンリレー

挑戦する心は歳を選ばない —80 歳からの
ベースギター

清藤 城宏

夜の外出が難しくなってきた。家内の介護が必要になり、長い時間家を空けられないからだ。以前は夜に出かけて合唱に参加したり、友人と飲んだりしていたが、今はそれもままならない。けれども、不思議と不満はなかった。むしろ「では、今できることは何だろう」と自然に考えるようになった。

そんなある日、ふと思い出した。若い頃からの夢のひとつ、「ベースギターを弾いてみたい」という思いだ。とりわけ、ジャズのウォーキングベースにずっとあこがれていた。あの低音でスイングするようなベースラインは、私にとって音楽の魔法だった。またロックバンドのグルーヴにも心を奪われていた。今なら昼間の短い時間が使える。これを機に挑戦してみようと、思い切って近くの教室に通い始めた。最初は指が思うように動かず、音もトットツバラバラ。だが先生は根気よく教えてくれた。毎日少しずつ練習を重ねて、ようやく「音楽を奏でている」と感じられるようになった。学ぶことが多く、時間が経つのもあっという間。気づけば、始めてから一年以上が経っていた。

そして先日、はじめて小さな発表会の場を得た。選んだ曲はあのビートルズの名曲「Come Together」を披露した。これまで何度も練習してきたはずなのに、最初の数小節はぎこちなかった。しかし、音が重なり、リズムが刻めるにつれ、緊張は次第に解けていった。後半に入る頃には、音楽の流れに乗り、気がつけば、自己陶醉の中で音楽を楽しんでいた。演奏が終わると、客席から「ワー、すごい!」「若いね!」という声が漏れた。顔が熱くなったが、それは照れと嬉しさが混じった感情だった。

今年、私は 80 歳になる。だが、新しいことに挑戦することに、遅すぎるということはないと実感している。年齢に関係なく、人はいつでも何かを始められる。ベースの音が教えてくれた。私はこれからも、自分のリズム（ベース）で前に進んでいきたい。



◆YMCA便り◆

「第 27 回
インターナショナルチャリティーランを終えて」

総主事 中田 純子

2025 年 5 月 24 日、新緑が美しく輝く中、第 27 回インターナショナルチャリティーランを無事に開催することができました。ご参加いただいた皆様、そして運営を支えてくださったワイズメンズクラブの皆様、心より感謝申し上げます。

当日は朝早くから多くの方々が会場に集まり、子どもたちの元気な声やランナーの皆様の笑顔があふれる一日となりました。皆様のご協力によって、障がいのある方々やそのご家族、そして YMCA の活動が力強く支えられていることを改めて実感いたしました。私自身も皆様とともに歩みながら、地域の温かい絆を感じることができ、心から嬉しく思っております。

また、今年はチャリティーラン実行委員会の皆様のご尽力により、協賛団体や支援団体の輪がさらに広がったことを実感しています。これからもチャリティーランが地域の皆様の心をひとつにし、子どもたちの明るい未来へとつながっていくことを願っています。そして、誰もが安心して参加できる大会を目指し、皆様とともに歩んでまいります。

YMCA が目指しているのは、誰もが心身ともに健康で、社会的にも満たされた「ウェルビーイング」の実現です。このチャリティーランを通じて、多様な人々がつながり、支え合い、共に幸せを実感できる社会づくりに、今後も力を尽くしてまいります。

最後に、日頃より YMCA の活動を支え、ともに歩んでくださるワイズメンズクラブの皆様、そしてご協力いただいたすべての方々に、改めて感謝申し上げます。皆様のご理解とご支援が、子どもたちの笑顔と未来、そして人々のより良い人生を支えています。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

